

第 2 回三重県海岸保全基本計画検討委員会技術部会 議事要旨

日時:令和6年2月14日 15時～

場所:三重県勤労福祉会館

地下1階 特別会議室

【天文潮位について】

主な意見は以下のとおり。

- 熊野灘区間の H.W.L の現行計画値が最近の潮位観測値と比べて低いのは、地盤沈降などを潮位観測値にきちんと反映されているという理解で良いか。
(事務局回答)地殻変動や基準面の変更等の影響を関係機関に確認し、どのように扱うかを整理した上で、改めて報告する。
- 尾鷲における 1986 年より前の潮位観測値についても整理し、長期間の傾向を確認した上で 13cm の潮位上昇をどのように扱うのかを検討する必要がある。
- 天文潮位の見直しについて、P58 の案 1 は気候変動を二重カウントしていないか。
(事務局回答)案 1 は安全を見込んで天文潮位が最も高くなる案として作成されているものである。今後は地殻変動による影響などを整理した上で、事務局案を提示する。
- 地殻変動の影響が無く、潮位が上がっていると考えられる場合には 2℃上昇の海面上昇予測値を使うと過小評価になる可能性があるため、予測値よりも大きい上昇量を見込む必要があると考える。2℃上昇の海面上昇量の幅の上限に近い値を採用している都道府県もある。
- 平均海面水位の上昇は一度発生すると下がるものではなく、気温の上昇が止まっても、継続して上昇する。そのようなリスクを考えるとしっかりと対応しておいたほうが良く、2℃上昇の上限値を使うということは、リスク管理の一つとなる。

【高潮推算・波浪推算の再現計算について】

主な意見は以下のとおり。

- 伊勢湾台風の高潮再現計算の確認において、検証データが痕跡高である部分に関しては誤解がないように明記したほうが良い。
- 沖波波浪推算のメッシュサイズを約 1km で実施することは問題ない。

【気候変動前後の外力試算結果について】

主な意見は以下のとおり。

- 高潮推算に伴う波浪の計算結果について、気候変動前後の変化倍率を算出し、他機関の過年度検討結果と同程度の倍率になったという事実があった方が、その倍率の信頼性が増すと考えられる。
(事務局回答)気候変動前後の波浪推算結果より変化倍率を整理して確認する。
- 原則として、気候変動があるにもかかわらず、現状より外力が低下するということはない。少なくとも現行計画未満にはならないようにするなどの最終的な判断が必要である。
- 伊勢湾台風について、気象庁の報告や過去の論文等を参考にすると、尾鷲では 2m 程度の潮位偏差が発生したと記載されている。何らかの振幅を含んだ瞬間値かもしれないが、もう少し調べてほしい。

【その他について】

主な意見は以下のとおり。

- 隣県と意思統一する必要があるので、情報共有等、連携しながら進めて欲しい。

以上